

令和6年度第1回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和6年8月29日（木） 午後1時～午後3時15分

■開催場所：京都市役所本庁舎4階 正庁の間

■議題

- (1) 市民参加推進フォーラムの令和6年度の活動予定について
- (2) 市民参加の裾野拡大の取組について
- (3) 令和6年度の市民公募委員サロンについて

■報告事項

- (1) 「新しい公共」の取組について
- (2) 市民参加に関する主な新しい事業について
- (3) 新たに設置された附属機関等について

■出席者：市民参加推進フォーラム委員 10名

（荒木委員（オンライン参加）、乾委員、竹田委員、千葉委員、並木委員、西澤委員、平野委員、松井委員、森実委員、森田委員）

■特記事項：公開で開催（傍聴者なし）

【議事内容】

1 開 会

＜奥井企画監（総合企画局企画調整・市民参加推進担当局長）あいさつ＞

松井市長のもと、「新しい公共」の取組、社会総がかりで課題の解決に取り組み、すべての人に「居場所」と「出番」のある社会を目指し、市民参加型行政を推進してまいりますので、今後とも、お力添えを賜われますようお願い申し上げます。

2 委員紹介

＜事務局＞

議事に先立ち、委員の交代についてご報告する。

令和4年度、5年度に座長をお務めいただいた森川委員と副座長をお務めいただいた篠原委員、金田委員、今井委員、原田委員の5名が退任され、今年度、新たに竹田委員、千葉委員、平野委員、西澤委員、森田委員をお迎えした。今年度1回目の会議でもあるので、委員の皆さまに自己紹介をお願いします。

（委員による自己紹介）

＜事務局＞

会議に入る前に、新たな座長を選出する必要がある。座長の選出については、京都市市民参加推進条例施行規則第9条第2項において、委員の互選により定めることとしている。座長の立候補・推薦などはあるか。

＜荒木委員＞

昨年度まで副座長を務め、フォーラムの活動をよく知っている乾先生を座長に推薦したい。

＜事務局＞

荒木委員より推薦があったがいかがか。

(一同賛成)

<事務局>

それでは乾委員に座長に就任いただくこととする。

続いて、副座長の篠原委員の退任及び乾委員の座長就任に伴い、副座長ポスト2つが空いたため、副座長の選出を行いたい。京都市市民参加推進条例施行規則第9条第2項において、副座長は委員のうちから座長が指名することとしており、乾座長に指名をお願いしたい。

<乾座長>

今回、大幅に委員の交代があり、私自身も任期が今年度末ということもあるため、来年度も見据えて、政策的な面や現場に精通されている面を踏まえ、村田委員と白水委員に副座長をお願いしたいと思うが、賛同いただけるか。

(一同賛成)

本日、両名共に欠席のため、副座長の受諾については事務局から確認いただき、後日委員全体に共有いただきたい。

<事務局>

承知した。

3 議 題

議題(1) 市民参加推進フォーラムの令和6年度の活動予定について

<乾座長>

それでは、早速議題に入る。「市民参加推進フォーラムの令和6年度の活動予定について」事務局から説明をお願いする。

<事務局>

(資料3、資料4に基づき説明)

<乾座長>

第3期市民参加推進計画が令和7年度に終期となる。次期計画を策定するため、現行計画が上手くいっているのか、健康診断的に評価する必要がある。お手元にある、フォーラムでの議論を基に事務局がとりまとめた評価指標について、意見や質問、提案等をお願いしたい。

<森田委員>

ロジックモデルとはどのような手法なのか。

<並木委員>

ロジックモデルは、施策を実施した結果、その対象にどれだけの変化が起きたかを測るものである。

例えば、「若者の市民参加が少ない」という課題に対して、行政が「若者向けのイベント」を開催した場合、「何人が参加した」という実績だけでなく、「参加者にどれだけ市民参加の意識が芽生えたか」という対象に生じる変化まで合わせて評価するのがロジックモデルの特徴である。

<森田委員>

定量的にも、定性的にも測るのか。

<並木委員>

そのとおりである。

<乾座長>

ロジックモデルを使う場合、本来は、計画の策定段階でどう評価するかも併せて検討する必要があるが、現行計画の策定時はその前提で議論をしていなかった。このため、現行計画の評価にロジックモデルは使えないが、次期計画でのロジックモデルの活用を見据えて、フォーラムで取り組んでいる施策7「若者の市政参加の拡大」の評価に、ロジックモデルを活用しようということとなった。

<西澤委員>

現行計画の終了時点の目標値はあるのか。

<乾座長>

現行計画には、重視する3つの視点とそれに紐づく指標がある。これが目標値のひとつではあるが、施策には指標が設定されていないため、施策の評価方法は、別途検討する必要がある。

現行計画の策定段階では、計画の評価方法まで議論できていなかったが、本来は、市民自身が評価方法も含めて計画し、実際に行動し、結果どうだったのかを評価することが、市民参加の分野では求められる。

その他、評価方法について、何か提案はあるか。なければ、私から提案させていただきたい。

現行計画には13の施策があり、15名の委員がいるため、分担して1人1施策を目安とし、3人1組でグループを組んで、1グループ2～3施策を評価するといった方法で委員自身が施策を評価してはどうか。

(一同賛成)

<乾座長>

賛成いただいたので、委員が評価する方法で進める。この場でどの施策を評価したいかすぐには答えられないと思うので、希望する施策があれば、後日、事務局に連絡いただきたい。最終的には皆さんの希望を踏まえ、私と事務局とで分担を決定させていただく。

また、今後、市民アンケートを実施するので、評価に必要なことは、市民アンケートから情報を得ることもできる。

市民自身が計画の評価に直接関わる機会はなかなかないが、ロジックモデルは、当事者も一緒に考えて、取り組むことに意義がある。こういった考え方も踏まえて、計画策定に取り組んでいきたい。

議題(2) 市民参加の裾野拡大の取組について

<事務局>

(資料5に基づき説明)

<竹田委員>

今の若者はすごく忙しい。若者と日々関わる中で、若者が自分たちの抱えている困りごとやおかしいと思うことをちゃんと言葉にしたり発信している姿を見る。子どもや若者が声を上げやすい環境を作っていけたらと思っている。

また、市民公募委員サロンについて、学生に参加してもらうことはとても良い。年齢の近い人が問題意識や関心を持って発言しているとか、そこに自分も共感できるか、といった仲間感や帰属意識を持てるかは大事。

<千葉委員>

学費を自分で払わないといけない学生の割合が増えているなど、学生は相当忙しく、余裕がない。加えて、損得に左右される今の世の中で、ボランティアに関心を持って参加する学生は限られている。遊び感覚で参加できるとかSNSを活用するなどの工夫が重要。

<森実委員>

既存の市政参加の仕組みにどのようにして来てもらうかというよりは、政策立案の過程をオープンにしていくという発想やアプローチも良いと思う。

<平野委員>

老若男女が集まる QUESTION では、中学校や高校、大学の先生に集まっていただき、学校や地域の垣根を越えて意見し合い情報交換する取組をはじめ、繋がりやコミュニティを作るイベントを企画・運営しており、そういった場を提供することはできる。

これまでのイベント経験から、子どもが参加すると親も一緒に参加してくれるため、若い年代から自分たちが暮らすこのまちの未来を考える機会をつくりつつ、親のリテラシーも変えていくことで裾野が広がっていくのではないかと思います。

<荒木委員>

経済的に厳しく、忙しい学生が増えているという、大学生や大学のあり方の変化に伴い、市民参加に対する関心が他の世代より低いというのは、自然なことである。それを受け入れたうえで、興味のある学生をいかに引き込むかという認識で良いのではないかと。平野委員が仰っていたような、関係性や当事者性、構造を変えるようなアプローチというのも面白い。

<乾座長>

いろんな意見が出たが、これからこのフォーラムで次期計画の検討や現行計画の評価が大きな議論となっていく中で、裾野拡大については、現在も続いている奏和高校のビジテックの授業は引き続きサポートしていくということで良いか。

(一同賛成)

「公共」の授業との連携は、出前授業のように学校側の要望に応じて行くという形で継続しつつ、評価し、次期計画で裾野拡大をどうしていくかを考えていくということで良いか。

(一同賛成)

<並木委員>

ロジックモデルを活用した政策立案は、参加型でできるというのが特徴の1つ。18歳以下の学生は選挙権がなく、直接的に市政に参加する手段がない。例えば、ロジックモデルを作る分科会に参加してもらうなど、何らかの形でプロセスに高校生が携わることができれば、プラスアルファの取組ではなく、それ自体を次期計画の策定プロセスに位置付けることもできるのではないかと。

<乾座長>

施策7の中で、ロジックモデルで高校生の意見を入れながら評価していくという、1つの理想的な形になりうる。高校側の状況にもよるが。

<並木委員>

全国の自治体で、子ども議会として政策提言をして、それに対して答弁しているケースもあるが、それが実際に政策に組み込まれているか、というリアリティはあまりない。若者が捉えている課題感というのはビビッドで、大人が思いつかなかった切り口で課題の提案をしてくれる場面も多い。そういうところを計画づくりに活かさせたらと思う。

<乾座長>

今年度、学生の声を取り込める場ができるかを検討しても良いかもしれない。

議題(3) 令和6年度の市民公募委員サロンについて

<事務局>

(資料6に基づき説明)

<松井委員>

去年参加したが、参加者が少なかった。開催方法の工夫や分かりやすい内容にするなど、少しずつ参加のハードルを下げて、参加している市民公募委員が楽しんでいる姿を見せることで、若者の参加が増えるのではないかな。

対面開催で良いと思うが、若者はオンラインの方が参加しやすいかもしれないので、ハイブリッド開催でも良いのではないかな。

<乾座長>

対面を中心に、オンラインを併用したハイブリッド開催というのもありかもしれない。

市民公募委員に対する敷居が高いという声もあるようだが、いかがかな。

<森田委員>

応募のハードルは高くないが、附属機関等の委員の中には、学識経験をお持ちの方も多いで、必然的にハードルは高く感じる。自分は、それ以上に京都市に対する思いや熱意、関心でカバーしている。

<西澤委員>

市民公募委員サロンは、テーマを分けて開催するといった参加方法もあるかもしれない。

<乾座長>

市民公募委員サロンは11月頃に開催を予定しており、今日の議論を踏まえ事務局と企画していく。裾野拡大の観点から、市民公募委員以外の人にも参加してもらおうという方法で進めたいと考えているが、他に意見はあるかな。

<並木委員>

以前、白水委員が市民公募委員サロンの中でグラフィックレコーディングをしており、分かりやすかった。今回も取り入れても良いのではないかな。

<乾座長>

市民公募委員サロンだよりも掲載されており大変良かった。

<並木委員>

市民公募委員は、自身が所属している附属機関等の分野に関心があって応募しているので、他の分野のことを知りたいというニーズがないと、交流を求めている可能性はある。市民公募委員に対してニーズ調査をしても良いかもしれない。

<森田委員>

別の附属機関等の市民公募委員もやっているが、昨年度、案内をもらったかあまり記憶にない。覚えていないということは、予定を調整してでも出たいと思える内容、文面ではなかったのかもしれない。

<竹田委員>

若者に市民代表というと荷が重いかもしれないが、市民公募委員サロンであれば気軽に参加

できると思う。

報告事項(1) 「新しい公共」の取組について

<事務局>

(資料7に基づき説明)

<乾座長>

市民参加推進計画の内容と同じ考えに基づいていると思う。今後、この新しい公共のビジョンに基づく政策と交わりながら議論していくことになる。

報告事項(2) 市民参加に関する主な新しい事業について

<事務局>

(資料8に基づき説明)

報告事項(3) 新たに設置された附属機関等について

<事務局>

(資料9に基づき説明)

<乾座長>

質問等はあるか。

(特になし)

<乾座長>

本日予定していた議題・報告事項は全て終了した。

<事務局>

市民参加推進計画の評価の分担については、希望があれば事務局まで連絡してほしい。座長と相談し決定したい。以上で本日の第1回会議を終了する。